

5月定例記者会見 会見録

令和5年（2023年）5月10日（水） 11:00～11:35 庁議室

質疑応答

■つくば市高齢者電動アシスト自転車等購入費補助事業について

記者A

予算額はいくらで、補助対象の自転車は何台分を想定しているのでしょうか。

福祉部

予算額は、3,675万円です。利用人数は500名を想定しております。

記者A

ヘルメット購入にも補助が出るということですが、今年4月にヘルメットの着用が努力義務化されました。それも背景にあるのでしょうか。

福祉部

はい。努力義務化を背景に、ヘルメットも一緒に補助をするという内容にしました。

記者A

電動アシスト自転車の2輪車や3輪車は想像がつくのですが、4輪車もあるのでしょうか。

福祉部

4輪車もございます。

市長

4輪車は、まだほとんど販売はされておりませんが、将来的に色々な要件を満たすような自転車が発売された際にも対象にする検討をしています。

記者A

4 輪車は、今はまだ市販されていないのでしょうか。

市長

ゼロではないですが、おそらく市内ではほとんど見ないと思います。

記者A

4 輪車は、前輪 2 つ、後輪 2 つが付いているのですか。

市長

そうです。

記者B

自転車の事故は、死亡する確率が高いと思うのですが、注意喚起などは行いますか。

市長

今回の自転車の購入費補助は、交通安全講習を受けた方を対象としています。その際にはもちろん、それ以外の場面でも啓発していきたいと思っています。例えば明日(11日)、私はつくば警察署主催の安全運転の啓発キャンペーンイベントに参加します。そこでは、弱虫ペダルのサイクリングチームの皆さんのご協力などもいただき、みんなで盛り上げようと思っています。積極的な広報をして、安全に使っていただくことをどんどん進めていきたいと思っています。私自身も自転車に乗りますが、自転車に乗ることの効果は様々あります。事故が怖いから乗らないというのではなく、安全面と利便性、その効果の両方をきちんとアピールしていきたいと思っています。

記者C

講習は実技講習でしょうか。取材はできますか。

福祉部

交通安全講習は、安全確認の必要性や夜間のライトの点灯など基本的な交通ルールや、高齢者が自転車を運転する際の注意点などをご説明する座学と、電動アシスト自転車の使用方法に関してのご説明及び試乗会の実技を予定しております。取材は可能です。

市長

どんどん取材して広めていただければと思います。

■チャットGPTの運用について

記者D

チャット GPT の運用について、自治体が様々な検討をされています。つくば市でも何か導入を検討されていたり、もしくは禁止事項を定めていたりなど、方針を決めていますか。

市長

他自治体でチャット GPT が初めて導入されたという報道があった2週間ほど前には庁内のイントラネット内にあるLoGoチャットに実装して既に使用しています。当然、個人情報や機密情報は入力しないという基本的なルールを守りながら運用しています。つくばスーパーサイエンスシティ構想のアーキテクト鈴木健嗣・筑波大教授が実装をしてくださり、職員それぞれのパソコンで使えるようになっていて日々進化しています。鈴木教授の名前にちなんで「AI 顧問 けんじくん」という名称です。注意点を常に共有しながら、どういう場面で使っていくことが適切かを現在、精査しています。

記者D

いつ頃から実装をしているのですか。

市長

全職員がアクセスできる場所に「AI 顧問 けんじくん」が実装されたのが4月10日です。

政策イノベーション部

チャット GPT は、4月10日から鈴木教授と一緒に、共同研究という形で試験的に運用しています。チャット GPT が実装されているのは、LoGo チャットというイントラネット内になり、ロゴチャットの運用と同様に個人情報や機密情報については絶対に入力しないよう機密性やセキュリティ面にはかなり注意をして使用しています。他方で、基礎自治体としてチャット GPT などの生成 AI を賢く正しくどう使うかということについて、市の顧問である川島先生や鈴木先生といった大学の先生と一緒に検討をしています。個人情報の扱いなどセキュリティ面においては、従来の情報セキュリティポリシーなどで担保されていますが、将来的にはもう少し細かい実運用面の職員向け研修なども実施していく予定です。

記者D

自治体によっては答弁や予算編成ではチャット GPT の使用を禁止しているところもありますが、つくば市では今のところ特に制限はしていないのでしょうか。

市長

今のところ個人情報や機密情報は扱わないということ以外は、特に制限はしていません。どんどん使いながら色々と試しています。

記者D

感触としては、うまくいっているのでしょうか。

市長

私はだいぶ前から普通に使っていますが、非常に有効だと感じています。

記者B

具体的にどのような業務で使われたのでしょうか。

市長

ブレストをする際に非常に役に立ちます。以前の「GPT-3」や「GPT-3.5」の時から挨拶の検討材料にしたり、政策の整理をしたりする際に使っていました。「GPT-4」になってから劇的に進化をしたと思います。個人的な話になりますが、朝晩の食事は私が作っているのですが、2週間分の献立を立てるのがとても大変です。「GPT-3.5」までは、献立を立てるために色々な条件を入力しても、なかなか思う条件どおりの結果が出てきませんでした。3月中旬にリリースした「GPT-4」になってから、精度が劇的に上がり、プロンプトさえ正確に入力すれば、非常に良い結果が返ってくるようになりました。行政の様々な文章のたたき台を作る際などには非常に有効だと感じています。

記者B

政策の整理をされていたということですが、具体的にどのような文言を入力されていたのか教えてください。

市長

チャット GPT がリリースされた当初は、そもそもチャット GPT が行政においてどのような役割を果たすのかという確認もしました。また、地方創生における課題整理について問うと、ポイントを整理してくれました。例えば、「GPT-4」がリリースされた直後に開催された他県の知事や政府関係者との地方創生のパネルディスカッション

において、会場に出てきた質問をその場でチャット GPT に入力し、出た回答を皆さんに共有しながら、チャット GPT を使った事例として紹介をしました。もちろん、個人情報や特定されるような情報は入力しませんが、色々な場面で普通に使用しています。チャット GPT を展開するオープン AI が、履歴を残さないことや学習に利用しないという方針を出しましたので、利用のハードルは少し下がったと思っています。いずれにしても、庁内での活用や行政に関わる使用については慎重に行っております。

記者B

市長がチャット GPT を使い始めたのはいつ頃ですか。

市長

昨年 12 月か、今年始め頃です。

記者B

市長の Twitter で、チャット GPT に夕食の献立を聞いている投稿を見ました。その投稿内容を新聞の記事に使用しても良いでしょうか。

市長

どうぞお使いください。

記者E

チャット GPT を議会の答弁で使ったことはありますか。

市長

議会答弁では使っていません。今の段階では難しいと思います。

記者E

具体的にどのような政策で、どのようにチャットGPTを使用していくのでしょうか。

市長

例えば今朝も、今回の自転車購入費補助事業を都市計画マスタープランの中でどう位置付けていくかについて、チャットGPTと対話をし、新たな視点が出てきました。また、ある事業の名称案を30案程出して欲しいとチャットGPTに聞きました。社会契約論と労働者協同組合の思想の類似性や違い、関係性についての整理などにも使っています。色々な場面で使用していますが、英語ではかなり正確にデータが出てきます。あくまでも参照材料であり、アイデアの壁打ち相手として使うことが多いです。

記者E

毎日、常時使っているということでしょうか。

市長

仕事でもプライベートでも、ほぼ毎日使用しています。子どもに何か聞かれた際や、ちょっとした調べものをする際にも使っています。例えば子どもから、「詐病」と「仮病」はどう違うのかと聞かれた際も使いました。Google検索でも調べることはできますが、検索よりも少し複雑なプロンプトを入れれば分かりやすい結果が出る時などには、チャットGPTを使います。Google検索とチャットGPTとでは、やれることは随分と異なります。検索を発展させた形で使っているイメージです。

記者E

今後、職員が政策提案をする際はチャットGPTに聞いてから市長に提案すると、通りやすくなりますか。

市長

そのようなことは無いです。どちらかといえば、チャット GPT は定型的な文章を作る場合に非常に有効だと思います。挨拶文については、感情をどう込めていくかも知りますが、それも上手な文章が出てくると思います。現在、職員が色々な使い方を検討しているところです。

政策イノベーション部

現在、万全なセキュリティの下で運用をしているところですが、例えば、英語をより滑らかな表現にしたり、出典を明示したうえで関連性が高い情報を表示したり、「グループ学習とは何ですか」という単純な質問をしたりなど、様々な使い方ができます。政策イノベーション部においては、例えば、他自治体がどのような技術シーズを持っているのかを調べる際に、普通の検索では一度に多くの情報が出てきてしまいますが、チャット GPT では知りたい情報が要約された形で出てきます。一方、出てきた回答をそのまま鵜呑みにして政策に反映することは当然出来ないと認識しています。あくまでも、検討材料の一つとして活用できるのではないかと考えております。

記者F

チャット GPT は、行政や法曹の世界においては過去の様々な事例を踏まえて判断でき、しかもそれを文章で作成してくれるという点で、非常に有効だと思っています。行政としては、スムーズな作業に繋がり、職員数をかなり減らせるのではないかと考えていますがいかがでしょうか。

市長

必ずしも職員の数を減らすことにはならないと思います。なぜならば現在、職員はフルで仕事をしており、本来であればもっと市民と向き合うような仕事をしたいのです

が、なかなかそれをやり切れていないのが現状です。つくば市が国内で最初に導入した RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）では、これまで人がパソコンで繰り返し行っていたファイルのコピーや貼り付けなどの作業を全て自動化したことで、対象業務の 8 割の作業時間を削減できました。それにより、職員数が減ったかという点、そうではありませんでした。ただ、対象業務が減ったことにより、単純作業ではなく、より必要な仕事に時間を充てられるようになりました。今のところチャット GPT は、人が行う業務を完全に代替するまでには至っていないと思いますが、下調べや文章のたたき台を作成する際には、劇的に時間短縮が可能になりますので、仕事の質をより良いものにしていけるだろうと思っています。

記者A

市長が、今春の小学校の卒業式の祝辞で、サッカーのロベルト・バジジョ選手の名言を引き合いに出していらっしゃいました。それは、「PK を外すことができるのは、PK を蹴る勇気を持つ者だけだ」というものです。先ほど、チャット GPT を挨拶にも使用しているとおっしゃっていましたが、この祝辞もチャット GPT を使って作成されたのでしょうか。

市長

多少、挨拶の定型的な部分では参照したかもしれませんが、使っていません。私自身がずっとサッカーをしていたことから、ワールドカップで日本代表が負けた際に大好きなロベルト・バジジョ選手が言った台詞を思い出したことによるもので、挨拶には私の色々な思いが込められています。そのような挨拶はまだチャット GPT では出てこないかもしれないですね。

記者G

チャット GPT は、職員数が減ることには繋がらず、本来はもっと市民に向き合う仕

事をしなければとおっしゃったことについての確認です。つくば市役所の仕事として、もっと充実させたほうが良いこと、或いは、不足している部分など思うところがありましたらお話いただけますでしょうか。

市長

そもそも、職員が忙し過ぎるのだと思います。例えば、現在市役所の窓口は、8時30分から17時15分まで開いています。8時30分から17時15分は、職員の勤務時間とイコールですので、残業が前提の仕事になってしまっています。窓口業務の証明書発行などが、さらに自動化できれば、困っている市民に対してより丁寧に聞き取りなどができるようになります。現在も福祉部門や子育て部門などから進めていますが、日中に相談業務を行えば、それに必要な事務手続きを残業して行うことになります。カスタマイズされた業務はチャット GPT で対応するなど、相談業務においてもチャット GPT はかなりの可能性を秘めていると思っています。例えば、チャット GPT が学習しているデータは、2021年9月までの情報になりますので、最近のつくば市の情報は出てきませんが、子育て関係のデータを独自のシステムにセットとして組み込んでいけば、市民の相談に対して活用していくことができるようになると思います。これは、つくば市が目指している「行かないデジタル窓口」にも繋がります。チャット GPT は、そのためのツールの一つではありますが、活用することでより丁寧に人が対応する必要がある業務に力を注いでいければと思っています。

記者G

チャット GPT が機能すれば、市役所の皆さんの仕事が劇的に変わるというイメージなのでしょうか。それとも、70%くらいが変わるのか、そのあたりの感触はいかがでしょう。

市長

パーセントでは言えませんが、日本を代表する AI の権威である東京大学の松尾教授が、「おそらく長期的には、中間の仕事は全部無くなっていくだろう」とおっしゃっていました。要するに、それらの仕事の多くは、受け取った情報を加工して、また別の形の情報として出していくという情報を変換する作業になります。例えばメールも、情報を受け取ってそれを変換して伝えていく作業です。そのような作業は、かなりの部分が自動化されていくのではということでした。Microsoft の Copilot では、色々なデータをもとに、あっという間にプレゼンテーション資料を作成してくれるようになりますし、今後働き方が劇的に変わることを想定していく必要があると思っています。

■ TX の茨城県内延伸について

記者G

TX の延伸について、第三者委員会からの提言は土浦方面が最善となりました。現在、県でパブコメ募集中という段階ではありますが、延伸はつくば市にとって有益なのでしょうか。また、つくばから土浦へ延伸されるのであれば、まちづくりを変えなければいけないのではないかなど、現在の考えをお聞かせいただけますか。

市長

まだ県でパブコメ募集中の案件であり、県としても正式決定しているものではありませんので、現段階で何がメリットになるのかなどのお答えはできません。もし、正式に方針や方向性が決定すれば当然、メリットやデメリット含め様々な調査をすることになると思います。

終了